

# 行程表

令和6年7月31日（水）

石狩市役所  
（6：30発）

→  
車

新千歳空港  
（7：30着）（8：30発）

→  
飛行機

羽田空港  
（10：05着）（10：40発）

→  
飛行機

熊本空港  
（12：25着）（13：00発）

→  
レンタカー

上天草市  
（14：30着）（16：00発）

→  
レンタカー

ホテル  
（17：20着）

令和6年8月1日（木）

ホテル  
（10：00発）

→  
レンタカー

市内視察

→  
レンタカー

ホテル  
（17：00着）

令和6年8月2日（金）

ホテル  
（10：00発）

→  
レンタカー

熊本空港  
（13：15着）（14：50発）

→  
飛行機

羽田空港  
（16：40着）（17：50発）

→  
飛行機

新千歳空港  
（19：20着）

→  
車

石狩市役所  
（20：20着）

## 石政会視察報告書

報告者氏名 山田敏人、青山祐司

参加者 伊藤一治・日下部勝義・花田和彦・高田静夫・加藤泰博・山田敏人  
・青山祐司・鈴木圭一・山本健司

### 【視察地及び調査事項】

(1) 7月31日(水) 熊本県上天草市

「災害時の独立地域の避難について」

(2) 8月1日(木) 熊本県南阿蘇村

「2016年熊本地震における被災状況と復興状況」

「熊本地震 震災ミュージアム「KIOKU」

### 【調査内容】

(1) 7月31日(水) 熊本県上天草市

「災害時の独立地域の避難について」

### ○視察対応者

「上天草市議会事務局」 田中委員長、山崎補佐、松原主事

「上天草市危機管理防災課」 松尾課長、松本課長補佐、松野危機管理監

○上天草市の概要 □面積 126.94 km<sup>2</sup> □人口 26,756 人

### 特色

上天草市は、熊本県の西部に位置し、有明海と八代海が接する天草地域の玄関口に位置し、大矢野島、上島など複数の島々で構成されている。市域の大部分で急峻な山ひだが海岸線まで迫り、全体的に平坦地は少ない。ほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれ、天草松島の風景や龍ヶ岳をはじめとする景勝地に恵まれる。年間を通して温暖多雨で果樹や花卉の栽培が盛んで真珠も特産品である。

## ○視察調査内容 「災害時の独立地域の避難について」

大規模災害時の上天草市の役割分担については災害に関する情報伝達、情報収集及び被害調査を行い、被災者に対する情報伝達、その他住民に対する広報活動を行うほか、市の役割として地域住民に対する避難指示を行う。また消防、水防その他の応急対策及び復旧対策も担う。被災者に対する救助、及び救護措置、また災害規模に応じ自衛隊の災害派遣要請を県に対し行い、災害時における保健衛生、文教及び交通の対策も行う。国や県からの救援物資の受け入れやボランティアの受け入れなどの対応も行う。被災市営施設の応急対策やその他災害発生の防御及び拡大防止のための措置などを市として行う。天草地域では海沿い集落があり道路の数も限られ大規模災害時は市中心部と分断され救助や物資の輸送が課題であるが上天草市の対策として「物資の準備」については避難者用物資は市内8か所に分散して準備している。島々地域をつなぐ橋が使用不能となった場合でも各町（離島）の備蓄品が利用可能である。「物資輸送」について陸路においては佐川急便、ヤマト運輸と災害時の物資輸送協定を締結しており、備蓄倉庫から各避難所へ物資を輸送できる。市内の港、ビーチを使用し海上から救援物資を受け入れ避難所へ輸送する。「救助について」は消防機関を主体とした救出班を編成し、救助活動を実施する。上天草市には20の消防分団が組織されている。自衛隊による災害派遣では熊本市健軍駐屯地があり速やかな災害派遣が可能となっている。防災、災害情報の伝達手段として上天草市では防災行政無線で個別受信機に放送する。上天草市LINEによる情報提供を行っているが全市民のうち12,000人以上の方が加入している。台風による災害や豪雨による災害が多い地域であることから市民の災害や防災に関する意識が高い。孤立を想定したヘリポートなどの必要性について大規模災害により橋梁が使用不能となった場合、船舶及びヘリコプターによる救助・救援物資を受け入れるため市内にヘリポート20か所、港は13か所使用可能である。

## 「所感」

石狩市においても上天草市同様海沿い集落や点在する集落があることから災害により孤立することへ対策が求められる。平時において地域住民の災害や防災意識の向上を図り、備えをしておくことが必要であることが今回の調査で感じたことから今後の防災対策に活かして行きたいと考える。

(2) 令和6年8月1日 熊本地震 震災ミュージアム「KIOKU」

○視察対応者

熊本地震震災ミュージアム「KIOKU」

井村氏、豊田氏

○視察目的

平成28年、観測史上初となる28時間のうちに2度の震度7の揺れが発生した熊本地震では甚大な被害がもたらされた。今回、ミュージアムを視察し、被災の様子や当時の災害対応を学び、当市における防災教育や今後の防災対策を検討する一助とすることを目的とする。

○視察内容

熊本地震では270名以上の死者、約20万棟に及ぶ建物に被害が及び、最大で18万人を超える避難者、道路の寸断や電気、水道、ガス、通信などのライフラインの停止などインフラに甚大な被害を生じた。震災ミュージアム「KIOKU」は、この熊本地震の記憶や経験、得られた教訓を後世に伝え、防災への啓発を図るため令和5年に開設された施設である。回廊型のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の回廊」では震災建物の展示や当時を振り返るシアター、震災遺構、各種プログラムを通して被災の様子、発生メカニズム、防災について学び、人と自然との共生のあり方について学ぶことができた。また、施設内には被災した旧東海大学阿蘇キャンパスが震災遺構としてあり、当時の被災状況を目の当たりにし震災の大きさを肌で感じることもできた。

「所感」

現実の災害対応においては、司令塔として1人に全権を与え、指示命令系統をはっきりさせ迅速に対応することが肝要であること。また、各地域の消防団や自主防災組織が救助や避難場所の対応にあたり、あらためて町内会を始めとする地域のコミュニティ組織の重要性を学んだ。このたびの、能登半島地震をふくめ、いつ何時、どのような災害が発生するかわからない。市としての防災体制はもちろんのこと、市民に向けて日頃から災害への備えを呼びかけ、地域のコミュニティ組織との連携をさらに強くする必要があると感じた。